

# ともに生きる 共生

## あの日 あのとき あの番組

共に生き共に支える～多様性社会へのメッセージ～

良司君、旅立ち ～全盲大学生、18年の記録～

放送日：2020年3月15日 放送時間：54分



対象校種 小学校高学年 中学校 高校

対象教科 総合 道徳

## この番組の良さ



### ● 全盲東大生 星加良司さん

星加良司さんは、5歳のときに小児がんを患い、全盲となります。しかし、家族やボランティアの方々、学校の協力を得て通常の学校へ通います。全盲の星加さんが特別支援学校ではなく、通常の学校で学ぶには、大変な苦勞がありました。星加さんが小学校に入る前から、東大入学までの生活を追ったのが本番組です。

### ● 当たり前を問い直す

本番組では、星加さんとその家族が、どのように障がいを捉え、周りと関わり生活してきたか克明に記録されています。また、星加さんと学校で日常的に関わることで、クラスメートや周りの人たちはどう変化し、支えてきたか分かります。

多様性が当たり前となってくる今後の社会を生きるための、これからの社会の当たり前とは何かについて考えるきっかけとなる番組です。

## 番組活用のポイント

### ● 多様な社会を自分はどういう価値観で生きていくか

本番組を活用する際は、番組の活用だけにとどまらず、アイマスク体験、福祉、性的マイノリティ、人権学習などに関連しながら、総合単元的に学習していくと効果的です。これらの学習を通して、これからの多様な社会を生きる子どもたちが、どう社会と関わり生きていくかを考えることができます。学習全体を通して、子どもたちの価値観を覆し、潤いと優しさ、自分だけでなく周りの人と協力して幸福を追及していくことに喜びを感じられる価値観について考えるよう働きかけることが大事です。

### ● 人生を豊かに生きる

人生を豊かに生きるためには、多様な見方・考え方を知り、様々な生き方を知り、価値観を高め、広げていく必要があります。本番組を通じて、今まで自分が当たり前だと思っていたことを問い直すなかで、「みんなにやさしい社会は、誰もが住みやすい社会。そのためにどういふ考え方をしたらよいか、自分に何ができるか。」について考えることへつなげていくことが大事です。

そのような多様な見方・考え方について深く考えるきっかけとして、性的マイノリティについて考えることのできる「道徳ドキュメント 人とつながる男らしさ、女らしさって何？」など、ティーチャーズ・ライブラリーの「共に生きる」ジャンルの番組を活用すると効果的です。



執筆者  
西条市立神戸小学校  
教頭 山内雅博

## 当たり前を問い直す。 これからの社会を生きるには？

対象校種 小学校高学年 中学校 高校 対象教科 総合 道徳

[授業時間 90分] 部分視聴

児童生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
<p>車いすだと、少しの段差でも動きにくい。</p> <p>アイマスクだと、一人だと歩くだけでも難しい。</p> <p>普段感じていない困難さがたくさんあった。</p> <p>私たちが当たり前だと思っていることは、だれにでも当たり前のことではない？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイマスクや車いすなど、事前に体験活動を行い、活動の感想を聞く。</li> <li>・星加良司さんの写真を提示し、5歳で小児がんのため全盲となったが、通常の学校で学び、東大へ入学した経歴を伝える。</li> </ul>
<p> 全盲の星加さんが考える誰にとっても住みやすい社会とは、どのようなことでしょうか？</p> <p>設備や環境を整えるバリアフリー。</p> <p>誰もが生活しやすいユニバーサルデザイン。</p> <p>偏見や差別のない生活。</p> <p>必要なサポートを受けられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「星加さんが考える誰にとっても住みやすい社会とはどのようなことか」問い、意見を整理する。</li> </ul>
<p>全盲の星加さんが、どうやって障がいを克服しながら生活してきたのか知りたい。どのように立ち向かっているのか知りたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・星加さんが小学校入学から大学進学までの生活を記録している番組があることを伝える。</li> </ul>
<p> 番組部分視聴 (5分～41分41秒まで) </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の求めに応じて、番組を紹介し、部分視聴する。</li> <li>・番組視聴では、星加さんの生活から、心に残った部分をメモしながら視聴するように伝える。</li> </ul>
<p>星加さんは、教科書や参考書を点字にして勉強したり、運動会では友達をサポートで全力疾走したりするなど、家族や学校、周りの協力・サポートを得ながら、通常の学校で学んでいく。</p>	
<p>なぜ、誰でも生活しやすい社会が必要なのか、グループで話し合う。</p> <p>様々な人が生活する社会になっている。</p> <p>人に優しい社会をつくるため。</p> <p>人それぞれ、当たり前がちがうから。</p> <p>幸せに生活するために、必要なこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でも生活しやすい社会を作るのは、なぜ必要か問い、グループで話し合う場を設定する。</li> <li>・自分の考えを書く時間を設定し、タブレット端末に記入するなどして、グループや全体で共有する。</li> </ul>
<p>誰にとっても住みやすい社会とは、年少者も高齢者も、障がいのある人もない人も、国籍や言葉の異なる人も、すべての人々がこの社会の中で、誇りをもって、心豊かで幸せな生活を送ることができるようにすることだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交流する時間を設定し、自分の見方・考え方を広げる。</li> </ul>
<p>自分の身の回りで、みんなが住みやすい社会にするために改善したらよいところを考え、話し合う。</p> <p>『ふだんの 暮らしの しあわせ』を誰もが実感できる社会にするために、自分が当たり前だと思っていることを見つめ直すことが大事だ。</p>	<p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・星加さんの生活から、社会へのへの見方や考え方を広げるとともに、自分にできることについて考えることができたか。</li> </ul>